



国際防災シンポジウム2009

災害にまけない地域づくり - 兵庫から世界へ

2009年1月19日(月)13:30 - 17:40

定員 200名
定員になり次第締め切らせて頂きます。事前にお申し込みください

参加受付 1月16日(金)17時まで

参加費無料 日英同時通訳付き

イラン、中国からの災害復興レポート
3カ国からの防災取り組み事例発表
パネルディスカッションなど
一般参加者との質疑応答

あの被災地は今どうなってるんだろう？

海外の防災対策は？



場 所 よみうり神戸ホール

神戸市中央区栄町通1丁目2-10
読売神戸ビル2F

震災から学んだことってなんだろう？

阪神・淡路大震災の教訓はどうやって活かされてるの？

主催:

国際連合地域開発センター(UNCRD)

読売新聞大阪本社

国際防災シンポジウム実行委員会

兵庫県、神戸市

ひょうご震災記念21世紀研究機構

国際防災復興協力機構(IRP)

国連国際防災戦略(ISDR)兵庫事務所

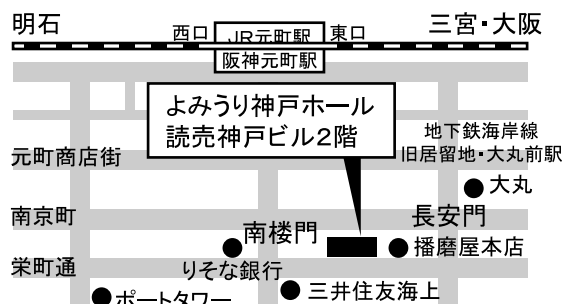
アジア防災センター(ADRC)、JICA兵庫、

国連人道問題調整事務所(OCHA)神戸、

CODE海外災害援助市民センター



本シンポジウムは、「(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構」と「ひょうご安全の日推進県民会議」の助成を受けて実施しています。



申し込み・問い合わせ先

シンポジウムに関するお申し込み、お問い合わせは、下記の国際連合地域開発センター防災計画兵庫事務所まで。

申し込みの際にご提供いただく個人情報は、ご本人様確認とUNCRDからのご案内のみに使用され、お客様の同意なしに第三者へ開示・提供することはありません。

国際連合地域開発センター(UNCRD)
防災計画兵庫事務所

〒651-0073

兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

ひと未来館5階

TEL: (078) 262-5560 FAX: (078) 262-5568

email: rep@hyogo.uncrd.or.jp

http://www.hyogo.uncrd.or.jp



阪神・淡路大震災から14年になります。私達があの震災で学んだことは日本国内のその後の災害で活かされるだけではなく、災害という大きなリスクに立ち向かうための国際協力に大きく貢献しています。災害はその地域の特質や社会経済的状況、防災体制によって被害が大きく異なり、対策が不十分であれば多くの犠牲を生むだけではなく、これまでに行われた地域開発のための人的、資金的な投資が効果を失います。そのため、平常時から地域開発政策に「防災」の観点を組み込む必要があります。

本シンポジウムでは、阪神・淡路大震災の教訓がその後どのように防災対策の最前線で活かされているか、また世界の防災文化構築及び災害復興にどのように兵庫が貢献しているかについて、そして災害に見舞われた地域からの事例報告を交え、起こりうる災害のリスクを軽減しようとしている国々の政府関係者、国際機関、NGOやコミュニティの専門家など様々な関係者と共に情報・意見交換を行います。

プログラム



Sustainable Regional Development & Disaster Management

13:00 - 13:30 受付

13:30 - 14:05 挨拶 小野川 和延 国際連合地域開発センター(UNCRD) 所長
井戸 敏三 兵庫県 知事
中村 仁 読売新聞大阪本社 社長
主賓代表挨拶 セイエッドアッバース・アラグチ 在日本イランイスラム共和国 大使

14:05 - 14:25 基調報告1:「兵庫県の支援を受けての学校復興」
モハンマドレザ・ヤズダンパナ SNS国際防災支援センター プログラムオフィサー

14:25 - 14:45 基調報告2:「中国四川省、汶川地震の復興事例」
袁 昕 北京清華都市計画設計研究院 副院長

14:45 - 15:20 基調講演3:「国境をこえた災害支援を考える」
室崎 益輝 関西学院総合政策部 教授 / CODE 副代表

15:20 - 15:30 防災教育教材「ビジュアル版 幸せ運ぼう」
松崎 太亮 神戸市教育委員会調査課 主幹

15:30 - 15:45 休憩

15:45 - 16:25 現地レポート

報告1:バングラデシュ アブドゥル・マズンダー
バングラデシュ食糧災害対策救助省 副次官
報告2:スリランカ アナンダ・マラワタントリ
国連開発計画スリランカ事務所環境・エネルギー・防災局チームリーダー
報告3:ネパール ヘマント・カレル
ネパール地域開発省特別政府 高官
プペンドラ・バスネット
ネパール地域開発省地方インフラ開発農道局 審議官
報告4:「ジェンダー視点と地域開発:UNCRD防災活動を通して」 斉藤 容子 UNCRD 研究員

16:25 - 17:25 パネルディスカッション:「防災から地域開発へ」

ファシリテーター: 加藤 孝明 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 助教
パネリスト: ディルバ・ハイダー バングラデシュ防災センター 副代表
万 小鵬 四川省成都市計画管理局計画編成管理所 所長
村井 雅清 CODE海外災害援助市民センター 理事・事務局長

17:25 - 17:35 質疑応答

17:35 - 17:40 閉会の挨拶 石垣 朝克 読売新聞大阪本社神戸総局 総局長

UNCRD 防災計画兵庫事務所の研究プロジェクトに関する詳細や出版物は <http://www.hyogo.uncrd.or.jp/> にてアクセスして下さい

国際連合地域開発センター (UNCRD) 防災計画兵庫事務所について

国際連合地域開発センター(UNCRD)は、国際連合と日本政府との間で結ばれた協定により、1971年に名古屋市に設立されました。UNCRDは、地域開発に関する研修や研究活動、途上国への助言や世界的な規模での知識の普及、各国政府や組織間の国際協力の促進などに取り組んでいます。

1999年4月、UNCRD防災計画兵庫事務所は、阪神・淡路大震災の被災地である兵庫県神戸市に設立されました。兵庫事務所は、阪神・淡路大震災から得た教訓を踏まえ「国際防災の10年(UNIDNDR 1990-1999)」の活動理念を継承し、2005年国連防災世界会議にて採択された「兵庫行動枠組2005-2015」の実施を目指します。

現在、「地域開発におけるジェンダーに配慮したコミュニティ防災(CBDM)研究プロジェクト」と「地震にまけない住宅計画(HESI)」等のプロジェクトを通じて、自助・協力・教育の3要素を機軸に、1.研究活動、2.途上国の行政官のトレーニングや市民の能力向上、3.国際会議の開催、4.各国政府への助言などを行うことにより、国際的に効果的な防災活動を促進することに努めています。